

阮朝の綿寅皇子の「国朝女範演義詞」から見た ベトナムの伝統女性観

佐藤 トウイウエン

The Vietnamese traditional view of women as seen from the 「国朝女範演義詞」 of Mien Trinh Prince (Nguyen Dynasty)

SATO Thuy Uyen

「国朝女範演義詞」(A printed book, now in the possession of the Institute of Hán-Nom studies) was written before 1883, by Prince Mien Trinh (1820-1840), who was the 11th Prince of the King Minh Mang (Nguyen Dynasty) - and then became Tuy Ly King County (绥理王). 「国朝女範演義詞」 was described by Nom script under a form of poetry called “six-eight” (「六八体」), comprising successive lines of six and eight syllables, respectively. And the text “Nūfan” (「女範」) of (Ming) 劉氏 Ms Liu. is the original manuscript of the 「国朝女範演義詞」, but was not regarded as an original manuscript of China.

In this paper, we would like to clarify the traditional Vietnamese view of women (女性観). Throughout this paper, we believe that we have successfully clarified how the Vietnam traditional view of women as seen from 「国朝女範演義詞」 is the same as the traditional Chinese view of women, namely as “a good wife and a wise mother” (良妻賢母), “three subjections that a woman in feudalistic should obey” (三従), “four virtues” (四徳), “a view of chastity” (貞節観), “filial piety” (親孝行), “virtue” (才智), “agnete” (父系親族集団), the honor toward the nation and their compatriots (国家や同胞に対する仁義) etc.

キーワード：国朝女範演義詞 (Nufan)、綿寅皇子 (Prince Mien Trinh)、伝統的な女性観 (the traditional view of women)、女性教育理念 (philosophy of education for women)、字喃資料 (Chu Nom materials)

はじめに

ベトナムにおいて、「家訓」は儒教にもとづく伝統的家庭における倫理教育を鮮明に映し出す資料といえる。現在でも、ベトナム国家図書館、漢喃研究院、ベトナム社会科学情報院、ホーチミン市の総合科学図書館、日本の東洋文庫、東京大学図書館、東京外国語大学図書館、京都大学図書館、大阪大学図書館およびフランス極東学院、フランス国立図書館、パリ・大学間共同利用言語・文化図書館 (BULAC)、ギメ東洋美術館図書館、パリ・アジア協会などに、約114点もの家訓関連文献が所蔵されている。

これらの家訓文献は三種類に分けることができる。それは①ベトナムの太后、皇子などの皇室メンバーが子孫に対する教訓を著述したもの、②みずからの子孫に修身、孝、義、忠、五倫などの倫理道徳を継承させるため、ベトナムの儒者、知識人が編纂したもの、③中国の儒者や皇室メンバーが編纂した「家訓」がベトナムで流布したもの、である。

このうち、三番目の文献としては中国の原本の漢文、字喃文、国語字（現代ベトナム語正書法）文に翻案したもの約30点が流布した。本稿ではこの三番目の30点のうち、「国朝女範演義詞」を中心に考察したい。

「国朝女範演義詞」についての研究は管見の限り、Bửu Cầm の *Nữ phạm điển nghĩa từ — một tác phẩm có giá trị bằng chữ Nôm chưa xuất bản của Tuy Lý Vương* (「女範演義詞」—— 綏理王の字喃翻案による価値の高い未刊行資料)¹⁾ がある。しかし、Bửu Cầm 氏の論文は「国朝女範演義詞」について創作時期、作者を紹介してはいるが、簡単に言及するにとどまっている。また、Bửu Cầm 氏は「女範演義詞」と中国の「女範」を文献学的に比較していないばかりか、避諱改字を指摘せず、儒教的思想面、ベトナムの伝統女性観に関しても特に論じていない。このほか、Bửu Cầm 氏が紹介する「女範演義詞」(Bửu Cầm 氏の家蔵の写本、1853年)は本稿で筆者が論じる「国朝女範演義詞」(『皇陳廟坤范嗣音歌章合稿』(AB. 140)²⁾ 所収、刊本、1905年)とは異なっている文献である。「国朝女範演義詞」は阮朝の綿寅皇子(綏理王)が中国の「女範」にもとづき、字喃によって「六八体」の詩体で翻案したものであり、現在、ベトナム・漢喃研究院に所蔵される。ただし、内容は中国の「女範」とまったく同一ではなく、一部変化が加えられ

1) Bửu Cầm, *Nữ phạm điển nghĩa từ — một tác phẩm có giá trị bằng chữ Nôm chưa xuất bản của Tuy Lý Vương* (「女範演義詞」—— 綏理王の字喃翻案による価値の高い未刊行資料)、*Văn hóa Nguyệt san* 第63号、Bộ quốc gia giáo dục、1961年、859~866頁。

2) ベトナム・ハノイにある漢喃研究院所蔵番号。番号は劉春銀・王小盾・陳義『越南漢喃文獻目録提要』(中央研究院中国文哲研究所、2002年)による。以下、同じ。

ており、ベトナム独自の避諱改字も見られるようである。

そこで、本稿では、Bùi Cầm 氏の研究を踏まえつつも、『皇陳廟坤范嗣音歌章合稿』所収の「国朝女範演義詞」を文化交渉の視点から文献学的、思想的考察を行うことで、ベトナムの伝統「女性観」を検討したい。

1 作者の履歴

「国朝女範演義詞」の作者は阮朝の綿貞皇子（綏理王）である。『皇親公主公子公女冊』によると「綏理公綿貞〔第十一〕己卯年十二月十九日子刻生」³⁾とある。すなわち、綿貞皇子は阮朝の明命帝（1820-1840）の第十一子であり、母は婕好黎氏愛である。己卯年12月19日（1820年2月3日）に生まれた。彼は字を坤章、季仲、または静圃、葦野と号した。松雲詩村（阮朝の有名な詩壇）の会員であり、綿申皇子、綿宝皇子とともに阮朝時代の優れた詩人、文人とされ、「詩到從綏失盛唐」（從善王（綿審皇子）と綏理王（綿貞皇子）の詩才は盛唐を失う）、「阮朝三堂」などの美辞で称賛された。作品には『綏国公詩集』（VHv. 35）⁴⁾、『葦野合集』（VHv. 4 / 1 - 2）、「国朝女範演義詞」がある。1897年11月18日、78歳で死去した⁵⁾。

2 「国朝女範演義詞」の形態

(1) 著作年代

「国朝女範演義詞」の扉には「国朝女範演義詞〔這炤依劉氏女範全篇奉演〕」、「皇十一子綏理王 臣綿貞欽奉」、「翼尊英皇帝⁶⁾ 敕譯」、「謹進 宜天聖后御覽」、「用備 慈宮誦講之次」、「綏理

3) 漢喃研究院所蔵『皇親公主公子公女冊』（A. 40）、第24葉表。

4) 注2前掲、ベトナム・ハノイにある漢喃研究院所蔵番号。

5) Ban Hán Nôm thư viện khoa học xã hội, *Thư mục Hán Nôm — mục lục tác giả*『漢喃書目 — 作者目録』

(Ủy ban khoa học xã hội Việt Nam 出版、1977年)、235～236頁および Trần Văn Giáp, *Lược truyện các tác gia Việt Nam*『ベトナム作者たちの略伝』（Văn học 出版社、2000年）、420～421頁を参照。

6) 翼宗英皇帝は嗣徳帝の諡号である。「国朝女範演義詞」の扉には「翼尊英皇帝」とある。

紹治の字である「綿宗」の「宗」を避けるため、「尊」に改めている。このことについて、紹治元年（1841）の諱の勅令には欠筆して「宗」としているが、紹治2年（1842）には通常の文章では「宗」を「尊」に改めるよう命じた。『大南寔録』には「辛丑紹治元年春二月頒紹治元年協紀曆、……禮部議上國諱諸尊字〔一臨文改用臨讀避音人名地名不得冒用凡三字、左從日中從方右從定、上從日左從右右從虫、上從下從示〕……」、「小字臨文稱呼惟禁不得連用若單用宗字凡於郊廟者著照樣直書餘職制及臨文應用者著省一畫臨讀者應稱為尊字亦足昭敬重」、「……壬寅紹治二年冬十一月、……列廟徽號與玉牒寔録中遇有應書人名及臨文如有恭遇列聖徽號亦準各敬缺一筆、至如臨文如係南國及北朝前代帝王廟號竝一切常用文字準各隨文義或改為尊字或別字者毋得仍前省畫餘依議行……」とある。阮朝国史館『大南寔録』正編、「大南寔録十三」第三紀（慶応義塾大学言語文化研究所、1977年）巻四62頁～64頁、巻二十六358頁、366頁を参照。〔 〕内

王子 臣洪著⁷⁾〔家藏原録〕とある(図1参照)。ここから、「国朝女範演義詞」は中国の劉氏の「女範」全篇にもとづき、綿貞皇子(綏理王)によって字喃を用い「六八体」の詩体で翻案され、さらに、翼宗英皇帝によって整理・注釈されたものであることがわかる。また、宜天聖后によって御覧され、后宮において読み上げられ講演されたこと、綏理王の子息である洪著が家藏の原本を書き写したこともわかる。

「国朝女範演義詞」の著作年代については明記されていないが、著者である綿貞皇子(1820-1897)は1883年に綏理王を贈られている。そして、『皇親公主公子公女冊』の「綏理縣公之子」には、「洪著〔第三十一〕丙寅年五月初六日辰刻生」⁸⁾と記されている。したがって、家藏の「国朝女範演義詞」の原本を書き写したのが綿貞皇子の第三十一子の洪著であることは明らかである。

また、翼宗英皇帝は嗣徳帝(1847-1883)の諡号である。さらに、原文には紹治帝の字である「綿宗」の「宗」および嗣徳帝の字である「洪任」の「洪」、成泰帝(1889-1907)の名である阮福昭の「昭」を避けるため、欠筆したり別字に改めるなど避諱の痕跡が見られる。

以上をまとめると、「国朝女範演義詞」は1883年以前に成立し、翼宗英皇帝によって整理・注釈され、成泰年代(1889-1907)以降、綿貞皇子の子である洪著によって「国朝女範演義詞」の原本が書き写されたあと、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』(AB, 140)に収められ、南墨廟宅で成泰乙巳仲夏(すなわち1905年5月)に刊行されたものと考えられる。

(2) 文献の構成

「国朝女範演義詞」は全52葉の刊本で、高さ27センチ、幅15センチである。内容は、「坤範嗣音稿奏文」、「国朝女範演義詞」、「詞跋詩題」、「陳朝徽廟国聖皇太后賜婦徳章」、「陳朝聖廟天感皇后賜婦言章」、「陳朝仁廟保聖皇后賜婦容章」、「陳朝英廟順聖保慈皇后賜婦工章」、「陳朝皇嬪萬春穿媚公主追尊靈慈国母奉演在家従父章」、「陳朝嫂恵王尼師仁娉公主追尊善道国母奉演出嫁従夫章」、「陳朝興道王妃天城公主追尊元慈国母奉演夫没従子章」、「陳朝范殿師閔内侯夫人水仙公主奉演婦有七出章」、「陳朝駙馬阮安義王夫人月花公主奉演婦有三不去章」、「陳朝英廟宮妃靜恵公主奉演勸孝章」、「本国烈女節婦列神奉題坤範嗣音歌闕跋」、「附録本国烈女節婦纂歌」、「不

は双行注である。

7)「洪」は、嗣徳帝の字である「洪任」の「洪」を避けるため、欠筆となっている。このことについては、『欽定大南会典事例』に「……其朕小字〔左従ゝ右従共 左従イ右従壬〕與偏旁諸字臨文均準其行用、仍不得連用〔左従ゝ右従共 左従イ右従壬〕二字再各遜一畫足昭敬重。母須改用別字。但臨讀避音與人名地名不得昌用、以合禮意……。」とある。阮朝国史館『欽定大南会典事例』(天理大学図書館所蔵)巻百二十一、第16葉裏を参照。

8) 注3前掲、『皇親公主公子公女冊』(A, 40)、第34葉表。

載供題姓氏芳名永後」の順序で構成されている。

「国朝女範演義詞」は各葉が上下二つの部分に均等に分けられている。上段には中国の「女範」を「六八体」の詩体で翻案した字喃詩を載せる。記載法は中国の「女範」と同様に、まず11篇（①総論、②后徳、③母儀、④孝行、⑤貞烈、⑥忠義、⑦順純、⑧禮節、⑨知慧、⑩儉勤、⑪徳才）に分けられる。ただし、中国の「女範」では4つの篇の題名が「国朝女範演義詞」と異なる。それは、⑦慈愛、⑧秉禮、⑩勤儉、⑪才徳である。また、下段には上段に掲載した烈女、孝女、母儀などの行状が散文で解説されている（図2参照）。本稿で考察するのは上段の字喃詩である。

3 「国朝女範演義詞」から見たベトナムの伝統女性観

「国朝女範演義詞」はさまざまな内容を含むが、便宜上、七つに分類して考察を加えたい。

(1) 良妻の理念

① 夫の事業を扶助する

娥皇、女英、塗山、有莘、姜后、馬后、鄧后、長孫皇后などの仁徳のある賢妻、婦道を守る妻などを挙げて、夫の治国や事業を扶助したことを明らかにする。

【原文】：

皇英虞滿名稱、塗莘徳順夏殷業賤。宣王漣暝朝晷、娵姜韶罪咎啞嚙干。漢喟馬鄧治安、嫺垺唐李勣幔寶孫。宣仁徳否乾坤、埃疑宮壺吏羣舜堯⁹⁾。……齊姜志奇謀淩、閔鍼業伯嚭愁情頽。……媼弘楊敞陀鑪、閨門盤泊朝廷凭安¹⁰⁾。

【日本語訳】：

娥皇、女英は妻の道を全うしたため、褒められた。塗山と有莘は二人とも徳が高く正しい人であるため、夏朝、殷朝の功業が長く維持されるのに貢献した。宣王が朝の朝見に遅刻すると宣王の妻である姜后は夫の遅刻がすべて自分の過失であると認め、巧みな言葉で諫めた。馬后、鄧后は賢く優しいため漢朝は盛んになった。宣仁皇后は天地と比較できないほど徳があり、宮中には「女中堯舜」（女中の堯舜）¹¹⁾と褒められた。……齊姜は賢く、大志があり、男女の愛情より夫の事業の方を重視して、夫が伯という爵号を授かるのに貢献した。……楊敞の妻が夫の代わりに朝廷の政事を議論したおかげで、漢朝の治安が保たれた。

② 「夫唱婦隨」、「夫に曲從」

小君桓氏、孟光などの夫に従順であった良妻の模範について記述しつつ、「夫唱婦隨」、「夫に曲從する」といった婦道の理念を提唱する。

【原文】：

茄明馬氏唱隨、仍徐微賤躋位君王¹²⁾。……孟光恪躋女流、ハ稅暘膾餒媼媼。戸陳辭職三公、駟甘ハ履媼窮打績。少君桓氏鍼能、台裙黜 樹 簪核蹻蹻¹³⁾。

【日本語訳】：

明朝の馬氏は、夫が貧しかった時から立身出世するまで変わらず夫に従った。……孟光は一般の女性と異なり、夫と共に賃金を貰って働く日々を送った。陳公は「三公」の官職を辞任し

9) 漢喟研究院蔵『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第四葉裏。

10) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第十七葉表裏、第十八葉表。

11) 日本語訳の部分の（ ）内は筆者の説明文、注釈である。

12) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第五葉表。

13) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第十九葉裏、第二十葉表。

て、自らは屨を作っており、妻も夫と一緒に靴を磨いた。小君桓氏は善人であり、粗い布のズボンを着、木製の簪を挿し、嫁いだ。

③ 夫の過失を諫めなければならない

『女孝経』に記される「夫なる者は天なり」と異なり、「国朝女範演義詞」は良妻が夫に曲従することを主張しているが盲従を勧めない。妻は夫の過失を諫め、悪い性格を矯正し、夫に勉学などを勧めることも求められる。このことについては拾って持ち帰った落とし物（金）を返し、正しい心を持つことが必要であると夫を諫めた楽羊の妻、夫に自分のことを自慢してはいけないと戒めた晏嬰の妻、朝廷に反乱を起こさないよう夫に警告した婁氏、官吏として民衆の財産を貪ってはいけないと諫めた周才美の妻、王である夫に、高麗に侵攻して民衆の財産を損うことがないように諫めた徐妃などの良妻の鑑を引用しつつ、夫に対する諫言、善導を強調する。

【原文】：

楽羊暄媼沛調、係悉固主油饒拯貪¹⁴⁾……晏嬰御者鍼功、罕羅媼咄朱馱へ官。……樂羊柄學媼憤、篤鍼耜擧之憊工夫。戸婁別義榦弄、拯暄啞媼過愚意馱。……媼周才美窒清、拯貪鬪塊害駟買能。……徐妃妒役渚茄、啞干没疏趾戈尪層¹⁵⁾。

【日本語訳】：

楽羊は妻の諫言を聞いた。それは、正しい心を持つなら、貧しくても落とし物を貪らない、というものだった。……晏嬰は妻の勧めのおかげで官吏になった。……楽羊は勉学に努めなかったため、妻は勉強は機織りと同じように、布になるまでの工夫が必要であると諫めた。婁氏は王に仕える心をもっていたが、彼女の夫が妻の言葉を聞かなかったのは愚かであった¹⁶⁾。……周才美の妻は清廉潔白な人であり、豪華な生活を貪らなかったため災いを避けられた。……徐妃は国のことに配慮して、夫である帝に戦争を行わないよう疏を奉った。

④ 家庭が円満になることに尽力する

太姒、趙姫、莊姜、京陵の人である鍾氏、東海の人である郝氏などの妻は家庭を円満させるため、寛容な心で自分の子孫も妾の子孫も差別せず可愛がった。また、妾と仲良くし、高い身分を忘れて妾としての身分を許容した。

14) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第十六葉裏。

15) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第十八葉表裏、第十九葉表、第二十葉裏。

16) 婁氏は夫に反乱を行わないように諫めたが、夫は彼女の言葉を聞かず、結局殺された。

【原文】：

噦喙太姒疎尼、傷調琨招杏排螽斯。芾悉慳怙積西、鹿形恩泣馬妃德慙。……趙成子固趙姬、訶嘒鬪奇岵萼黼黻。噤嵬嫡庶情淒、吟句仲子添愁莊姜。京陵東海堆娘、仁茄和順罌方學隊¹⁷⁾。

【日本語訳】：

「螽斯¹⁸⁾」のように子孫を差別せず可愛がった太姒のことや、自分の子にも夫の妾の子らにも同じように接し、彼らのため銀の鹿のおもちゃを作ってあげた馬妃のことを称賛する。……趙成子の妻である趙姬は高い身分になっても、立場や義理を忘れることがあっただろうか。莊姜と仲子は正妻と妾の身分を気にかけず、非常に仲が良かった。京陵、東海はお互いの家族とも仲が良かったため、皆が二人の家族を鑑として見習った。

⑤ 勤儉に努める

豪華な生活を送ることができるのかかわらず浪費を戒め、贅沢な服を着ず、勤勉に生きるという話（馬后、穆姜、太姒の模範）を引用しつつ勤儉を高唱する。

【原文】：

尼娵馬后漢皇、拯求錦卒默常黜粗。……詩歌太姒德簪。箕功ハ黜怨情搯蔓¹⁹⁾。

【日本語訳】：

漢朝の馬后は良い錦を求めず、常に粗い布の服を着た。……『詩経』が布を織り、苘を摘む際、（夫を懐かしく思ったことについて）太姒の善徳を称賛する²⁰⁾。

⑥ 嗣子を生む

太姒、元妃姜源、次妃簡狄、三妃慶都などの模範を挙げている。彼女たちの仁徳のおかげで、嗣子やたくさんの子が生まれ、福があふれる家庭が作られた。

【原文】：

吟排麟趾關雎、喙娵太姒德餘閑莪。課希帝譽緘慙、匹娵恬應生甥聖賢、霖琨疎雅議喙、姜醜

17) 注9 前掲、『皇陳廟坤範詞音歌章合稿』（AB. 140）第十五葉表裏。

18) 「螽斯」は『詩経』国風・周南にある詩である。このことについては「螽斯羽、詵詵兮。宜爾子孫、振振兮。螽斯羽、薨薨兮。宜爾子孫、繩繩兮。螽斯羽、揖揖兮。宜爾子孫、蛰蛰兮」とある。

19) 注9 前掲、『皇陳廟坤範詞音歌章合稿』（AB. 140）第十九葉裏。

20) 『詩経』国風・周南の「葛覃」には「葛之覃兮、施于中谷、維葉莫莫、是刈是獲、爲絺爲綌、服之無斃。言告師氏、言告言歸、薄汙我私、薄浣我衣。害浣害否、歸寧父母」とある。また、国風・周南の「卷耳」には「采采卷耳、不盈頃筐。嗟我懷人、實彼周行。陟彼崔嵬、我馬虺隤。我姑酌彼金罍、維以不永懷。陟彼高岡、我馬玄黃。我姑酌彼兕觥、維以不永傷。陟彼砠矣、我馬瘠矣、我僕痡矣、云何吁矣」とある。

厚德妣坤高仁²¹⁾。

【日本語訳】：

「麟趾」²²⁾「關雎」²³⁾という詩を詠じ、代々徳があふれる太姒のことを褒める。帝嚳が王位を継いだとき、三人の妃²⁴⁾には聖賢の子息が生まれた。また、『詩経』が太姒が太姜の仁徳を見習って、太姒が100人の子息を生んだことを褒めたとある²⁵⁾。

このように、「国朝女範演義詞」では、女性は「良妻」であることが求められる。具体的には夫の事業を扶助しつつ、夫の悪い癖、過失などを諫めること、家族仲睦まじくするため、正妻は寛容の心で夫の妾と仲良くし、自分の子孫も妾の子孫も差別せず愛すること、勤儉であること、「夫唱婦随」、嗣子を生むことなどについて記述されている。言い換えれば、これは「修身」、「齐家」という儒教の思想でもある。既婚の女性は、自我すなわち身分を捨てて夫の志向に従い、夫と苦楽を共にすることが求められる。夫は家庭の大黒柱であり、妻に頼られる人であるといえよう。一方、妻は夫の助手となり、二人が互いに協力して夫婦の道を立てる。それは夫婦の「和」の思想、「剛柔」の義にもとづく夫婦観であり、「夫義婦聽」の思想である。ただし、夫が家庭の大黒柱ではない場合は、妻は夫に従う必要がない。このことについては第7節「[礼]を重んじる」で後述する。また、嗣子を多く生むことについての記述は、「不孝有三、無後爲大」(『孟子』離婁篇上)という孟子の「孝」思想や生命観、父系親族集団という儒教思想を反映するものといえよう。

さらに、女性が良妻になるためには、仁徳を有する必要があり、夫に無条件に従うだけではなく、夫を諫めたり、政治的決断を下すことも必要とされる。たとえば、楊敞の妻が夫の代わりに朝廷の政事について議論した話、徐妃が帝である夫に高麗を侵略しないよう諫めた話、婁氏が夫に反乱を行わないように諫めた話などである。彼女たちは「良妻」の役割を果たしつつ、「忠臣」という役割も全うした。ここで注意したいのは楊敞の妻の話の中で、儒教の「男女有

21) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』(AB, 140) 第四葉表。

22) 「麟趾」とは、『詩経』国風・周南にある「麟之趾」詩のことである。「麟之趾」には「麟之趾、振振公子、于嗟麟兮。麟之定、振振公姓、于嗟麟兮。麟之角、振振公族、于嗟麟兮」とある。

23) 「關雎」は『詩経』国風・周南にある詩である。「關雎」には「關關雎鳩、在河之洲。窈窕淑女、君子好逑。參差荇菜、左右流之。窈窕淑女、寤寐求之。求之不得、寤寐思服。悠哉悠哉、輾轉反側。參差荇菜、左右采之。窈窕淑女、琴瑟友之。參差荇菜、左右芼之。窈窕淑女、鐘鼓樂之」とある。

24) 韻文には「三人の妃」と記されているが、散文には「元妃姜源、次妃簡狄、三妃慶都」という説明がある。

25) このことは『詩経』大雅・思齊に「思齊大任、武王之母、思媚周姜、京室之婦。太姒嗣徽音、則百斯男」とある。

別、「男外女内」という伝統的「礼」の理念²⁶⁾、『顔氏家訓』治家篇に記される、女性は内助に止まるべしという思想²⁷⁾とは違う女性観が見られることである。つまり、非常事態においてはそれ相応の方法を行うことがわかる。これは『中庸』の「時中」理念²⁸⁾、孟子の「執権」という理念²⁹⁾といえるかもしれない。また、婁氏の夫は妻の言葉を聞かなかつたために命を落としたという話などは、賢妻の言葉を聞く必要があることを説くもので、「敬妻」思想³⁰⁾をも見出すことができる。また、楽羊の妻が落とし物の金を拾った夫に貪欲の心を起こさないよう諫めた話、周才美の妻が夫に官吏として民衆の財産を貪らないよう諫めた話などは、広い意味で「一家仁、一国興仁。一家讓、一国興讓。一人貪戾、一国作亂」、**「誠意、正心」**という『大学』の思想に従い、家や国の「仁」が盛んになることを目指すものといえよう。そうであれば、これは女性による「齐家」の重要性を説くものということになる。

なお、「国朝女範演義詞」は中国の原本である女範と比べて「勤儉」に関する記述をいくつか省いている。

(2) 賢母の理念

① 子の事業に強く影響を与える

いくつかの賢母の話（程母、和靖の母、房母など）を記述しつつ、母が子の未来の事業、子の教育に対して重要な役割を果たし、子の未来の事業に責任をもつことを明らかにする。

【原文】：

正台程母法茹、寛共柴四嚴廡咈毘。喏翁和靖儒門、固娑羞意買毘勢尼³¹⁾。……娑陶待客買奇、執鍼志奇惜之鬢髴。昧撐房母彈娑、曩貼伴 袷別羅公卿³²⁾。

【日本語訳】：

程母は家法に従い、自分の子に対しては厳しく扱ったが、召使いに対しては寛容の心で対処

26) このことについては『礼記』内側篇に「礼、始於謹夫婦、為宮室、辨外内。男子居外、女子居内、深宮固門、闔寺守之。男不入、女不出。男不言内、女不言外」とある。

27) 『顔氏家訓』治家篇には「婦主中饋、唯事洒食衣服之禮耳。國不可使預政。家不可使幹蠱、如有聰明才智、識達古今、正當輔佐君子、助其不足、必無牝雞晨鳴、以致禍也」とある。

28) 『中庸』第二章に「仲尼曰、君子中庸、小人反中庸、君子之中庸也、君子而時中」とある。

29) 『孟子』盡心章句上に「子莫執中、執中爲近之、執中無權、猶執一也、所惡執一者、爲其賊道也、舉一而廢百也」とある。

30) 任夢溪「『礼記』における女性観——儒教的女子教育の起点——」（『東アジア文化研究科院生論集』第4号、関西大学大学院東アジア文化研究科、2015年、99頁～111頁）に「敬妻」の思想に関する考察がある。

31) 注9前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第六葉裏、第七葉表。

32) 注9前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第十七葉裏。

した。和靖（すなわち尹和靖）は孔門には名声がある。それは厳しく教えた母³³⁾の功勞である。……陶母³⁴⁾は（息子が良い友達と付き合うことを勧め）、自らの髪を売って得た金で息子の友達を接待した。房母は観察力が鋭かった。ある日、幼な子の友達を見て、将来彼らが公卿になることがわかった。

② 厳しい教育観

ア. 「信」、「智」、「仁」、「忠君」を子に教養する

孟母、景讓の母、嚴延年の母、范滂の母などの賢母の模範を挙げ、「信」、「智」、「仁」、「忠君」、官吏の守るべきこと、学問、倫理道德、自己修養などを子に厳しく教えることを強調する。

【原文】：

沒啞孟母拯訛、也他謨餉空他耐 猥³⁵⁾。……尼娑鄭氏械嗜、罪隣景讓恩傳地方。淫娘嚴母腐傷、別羅掘害擻塘災凶³⁶⁾。……習聆沒胞忠希、昉滂嫉難娑蘇猥停。……餒娑陵母強咳、猥齏沛助些聆黠料³⁷⁾。……嘯猥虞母窻籍、捌悉 汝 嫉 歇 情 扶 希³⁸⁾。

【日本語訳】：

孟母の言葉は嘘言ではない。子が己の言葉に責任をもつよう豚肉を買い与えた。……鄭氏が（子の景讓に慈愛の心で兵士に対処しなければならぬと戒めたおかげで）、仁徳の官吏である景讓は地方に称賛された。嚴母は官吏である子が人を多く殺したことは将来、災いをもたらすことがわかった。……（范滂の母、蘇軾の母は）以前から君に対する忠心を持ち、范滂には素晴らしい母がおり、蘇軾の母には善い子がいる。……陵母の忠心はなおさらである。子が敵に脅されないように、子に対する忠君を全うできるように母（陵母）は自殺した。……虞母は子を教養することに優れた。子に母のことを心配させないようにし、君に仕えることに全力を傾けるように勧めた。

33) 原文の韻文には「娑」（祖母）と記しているが、下段にある散文（説明文）には「嫉」（母）、および中国の「女範」（『女四書』所収）には「母」と記している。そのため、ここでは「母」を訳している。

34) 陶母、すなわち晋の陶侃の母である。

35) 注9前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第五葉裏。

36) 注9前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第六葉表裏。

37) 注9前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第十二葉裏。

38) 注9前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第十三葉裏。

イ. 勤学の教養

韓氏、歐陽の母、皇甫士安の叔母の話を用いつつ、子に勤学を厳しく教えたおかげで子が出世立身したことを強調する。

【原文】：

吏嗜韓氏義方、和丸密構執場經麟。掖萃ハ筆筭文、歐陽固媿咄隣羅柴³⁹⁾。……嬾昉皇甫課饒、押嚙役學傷腰招賢⁴⁰⁾。

【日本語訳】：

韓氏は、子の学業を扶助するため熊の肝を味合わせ、丸薬を作ったことが褒められた。歐陽には、芦を折り文字、文章を書くことを教えた先生の役割をも果たした母がいた。……皇甫の叔母は、貧しかった時の皇甫を可愛がって勉学させた。

ウ. 清廉、謹慎、勤勉の教養

陶侃、嵩不疑、田稷、文伯の母などの教訓についての記述が見られる。彼女たちは、官吏である子に民衆の財産を貪らないこと、判決を下す際謹慎が必要であること、余裕のある状況でも勤勉、勤労しなければならないことを教えた。

【原文】：

嬰陶假紇參坤、清廉ハ寶脰唁拯忙。……不疑恻媿買能、伸冤悉妥仁滂啗。渚齊田稷韶鎖、啞啞媿唼名揚碎賢⁴¹⁾。……穆姜絲執工夫、混干ハ丕媿爐拯停⁴²⁾。

【日本語訳】：

陶母が（子から送られた）魚を返したのは賢かった。清廉を宝として堅持し、美味しいものには思いを致さなかった。……不疑は母のおかげで刑をゆるめ、仁徳の官吏として名をはせた。齊の田稷は（賄賂として）金を受けたことを母から厳しく叱られたおかげで、賢い官吏になった。……穆姜は一生懸命に麻を紡いだが、子は母に対して、このように苦勞する必要がないと言った。母は子のこのこと（勤勞を知らないこと）を心配している。

③ 「仁義」の継母になる

継母になっても、夫の子供を差別せず、自分の子と同じように扱いつつ、必要な場合、自分

39) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第五葉裏、第六葉表。

40) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第十五葉表。

41) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第五葉裏、第六葉表。

42) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第十九葉裏。

の子より夫の子を優先しなければならない。「仁義」の心を持つ継母になることを主張する。

【原文】：

媿翁替罪媿馱、窻啗柴母欣綏婦人⁴³⁾。

【日本語訳】：

夫の子を守るため、己の子を罪を犯した人だといった。一般の婦人（の仁義）を超えた柴継母は称賛に値する。

以上のように、賢母は子のよい鑑になること（孟母の話）、仁義の継母であることが求められる。また、賢母は官吏である子に対し、部下を度を越えて厳格に扱わないこと、「孝」より「忠」を重んじること、官吏として清廉、謹慎、勤勉の三つを守ること⁴⁴⁾、幼い頃に善い友達を選んで付き合うこと、身を修めることを教えなければならない。たとえば、景讓の母の話にも見られるように、為政者として部下にある程度厳しく接することが必要であるが、それが度を越えてしまうと、「仁」を離れ、人心を失う可能性があるため、適度に物事を処置する必要があることを子に訓示した。また、賢友と付き合うべしという陶母の教えは「孔子曰、益者三楽、損者三楽、楽節礼楽、楽道人之善、楽多賢友、益矣、楽驕楽、楽佚遊、楽宴楽、損矣」（『論語』季氏篇）という孔子の教えに従ったのであろう。そうであれば、儒教の思想・文化は当時の一部の婦女に伝えられていたことになる。

(3) 貞節観

鳥林、夏侯令女、梁節婦、竇姉妹など、頑なに貞操を固く守る貞女、節婦、烈女、烈婦を称揚する。

【原文】：

鳥林符節欺馱⁴⁵⁾。……夏侯令女窻啗、割移聰駒朱紵節貞。凝妻義意強驚、馱旺找翹娘停割晒。……焯焯涅符拯痲、中心不改吏羅節貞。……姉媿戸竇吸崙、蹺馱凶辱捕翁齋蕘。……伯嬴符正埃皮、拯朱吳子敢拱楚宮。餒悞馱媿拱終、媿悉宋女紵悉從夫。……戸梁節婦強濃、料翁割媿底悉餒馱。返亂節鄭拯痲、嚴隣將師特驗侶堆。……戸王疎刻没篇、魂散鄴肉名傳泣方。娘崔返賊神塘、刀捺決擦笄忙拯辭。李妻膠納恪之、黜抗媿媿 替欺災馱⁴⁶⁾。……有緝脫塊連遭、蹺泃夏室孕

43) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第六葉裏。

44) このことは『呂本中、官箴』に「當官之法、惟有三事、曰清、曰慎、曰勤」とある。

45) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第五葉表。

46) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第九葉表～第十二葉表。

城中興⁴⁷⁾。

【日本語訳】

鳥林は貧しい時期から貞節を守った。……夏侯氏の娘令女は褒めるに値する。彼女は貞節を固く守るため耳、鼻を殺ぎ落とした。凝（すなわち王凝）の妻が貞節を守ったことはなおさらである。彼女は旅館の人に腕を引っ張られたために、わが手を切り落とした。（吏氏が顔面に）「中心不改」という四文字を刻したことも貞節である。……竇姉妹は苦難の人生にあった。賊に身体を望まれると賊の要求に従わず、自殺をしたことで芳名を得た。……伯嬴は誰にも比べられないほど正順を守った。彼女は呉子を楚宮に入らせなかった。宋女の夫に従う心は揺るぎない。夫婦二人ともお互いに面倒を見る。……梁節婦はなおさらである。再婚せず子の面倒を見る意志を表すため、鼻を切り落した。乱に遭った時も鄭氏が貞節を守る心は揺るぎなく、賊の將軍を厳しく叱っており、（釈放されて）後に、夫と再会できた。……王氏は山の頂に一篇の詩を賦した後、山から飛び降りて、その芳名は至るところに伝わった。崔氏は途中で賊に遭い、刀を持ち、賊と戦って、賊に矢を射られても怯まなかった。……（飢餓で人肉さえも食らう状況に）李（すなわち李仲義）の妻は夫の身代わりに死んだ。……有緝は苦難の状況から逃れ、（一生懸命に嗣子の面倒を見て、そのあと、この嗣子は）夏朝を継続し、中興をなした。

このように、ここで叙述されている貞節観は、貞女、烈女、節婦、烈婦が殉節、すなわち戦乱や凶暴な男、寇賊に遭ったとき、貞節を守って自殺すること、および亡くなった夫とともに命を絶つこと、容顔を毀傷すること、再婚せず子の面倒を見ること、夫を守るため、夫の身代わりに死ぬこと、夫を一生看病することなどである。換言すれば、貞節観は「節」、「貞」、「烈」、「三従」、「愛夫」、「義」の理念まで包括するようになっている。この貞節観は処女の観念を重んじること、「餓死事極小、失節事極大」（『小学』嘉言第五）、「忠臣不事二國、烈女不更二夫、故一與之醮、終身不移」（『女範』）、そして、「象曰、婦人貞吉、従一而終也」（『易経』恆卦）といった思想を反映しているであろう。このように、貞節は当時の女性にとって命より重視されたものであり、女性の徳（婦徳）を評価する基準の一つになる。この貞節観をとおして、当時の女性の生死観、ありかたが見られるといえよう。

47) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第十七葉表。

(4) 孝行、孝悌の理念

「国朝女範演義詞」では、王覽、唐夫人、姜詩、陳氏、趙氏、木蘭、曹娥などの『日記故事』系の「二十四孝」説話⁴⁸⁾や、『二十四孝別集』⁴⁹⁾、『百孝図』、『列女伝』などの父、姑、祖母（父方）に対する孝子の話が見られる。

① 父に対する孝行

【原文】：

楊香歳霽簪棋、打捨救布於尼細棋。緹縈買甕媽尼、爲傷親父吁哀肉刑⁵⁰⁾。……女涓没曲操舟、法嚴塊罪液濃添情。曹娥孝女輒驚、搢吒遠滄招驗神濃。木蘭媽易固兜、樹哀征戎焞油雪霜。娘陳料掘窖坤、軼吒特脱媼 混沛料⁵¹⁾。

【日本語訳】：

楊香は簪をさす年齢になっていなかったが、田で虎を退治して父を救った。緹縈のような娘は初めて目にした。父を愛していたため、父の代わりに体罰を受けることを願ひ出た。……（父が酔って自らの職責を全うできなくなったとき）女涓は（晋の趙簡子を送るため、父の代わりに簡子の）舟を漕ぎつつ、一曲の歌を歌ったおかげで、父は罪を免除され、彼女は（この簡子の）嫁になった。孝女である曹娥は驚くほど親孝行だった。彼女は川に身を投げ、父の死体を抱きかかえて、川面に浮かんだ。木蘭のような女はなかなかいないであろう。父の代わりに出征して、霧や雪に晒された。陳氏は父や夫が釈放されるように、危険に身をさらし、命を賭けた。

② 姑に対する孝行

【原文】：

茄姜浩吼鯨鮮、蹺軼義媼感歪傷妯。涓崔混招鬲鬪、爲慙液討添歎歲襟。戶盧課賊飽茄、拯驚鮪鉞拖娑母親。餒姑劉氏殷勤、嘔咬螻毒鼎舛棘籜。啣台聞氏没驗、養姑拱匪守貞拱驗。戶陳榦

48) 『日記故事』系の「二十四孝」説話については佐藤トウイウエン、「李文馥系の「二十四孝」と『日記故事』」、『東アジア文化交渉研究』第7号、(関西大学大学院東アジア文化研究科、2014年3月)、259～276頁を参照されたい。

49) 「二十四孝別集」については、佐藤トウイウエン、「ベトナムにおける「二十四孝別集」をめぐる」、(『東アジア文化交渉研究』第9号、関西大学大学院東アジア文化研究科、2016年3月)、261～281頁を参照されたい。

50) 注9前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』(AB. 140) 第七葉表。

51) 注9前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』(AB. 140) 第八葉裏、第九葉表。

迭如羣、ハ姉韶寡勢 毘 餒襟⁵²。……貴梅靉堯拱羅、姑停塊啗輪他擲窶⁵³。

【日本語訳】：

姜⁵⁴の家には新鮮な魚や旨い川の水がある。夫に従って情義に厚い嫁であるため、天は（彼女の孝心に）感じ入った。崔家⁵⁵は子孫が富貴である。孝子である嫁の母乳のおかげで、姑は寿命が長くなった。盧氏は賊が家に入った際、刀をもち、姑⁵⁶を守った。劉氏は姑に真面目に孝養し、毒のある昆虫を食⁵⁷、自分の血でよい薬と調合して姑に飲ませた。寡婦である聞氏は褒めるに値する。姑に孝養することも貞節を守ることも全うした。陳氏は生きているものと同じように亡くなったものにも仕えた。夫が亡くなったが、嫁として夫の代わりに姑の面倒を見た。……貴梅は生死を気にせず、姑に誣告されたのに姑を訴えなかった。

③ 祖母（父方の親）に対する孝行

【原文】：

搦肝買覓芻張、燭爨救媿妥塘ハ祖⁵⁸。

【日本語訳】：

（祖母のため）肝を切って薬を調合したことは張氏の説話にしか見られない。そのため、祖母を救うことができ孫⁵⁹の道を全うした。

④ 兄弟に対する孝悌

【原文】：

替朱役姉纒尼、王家沙覓覽妻坤皮⁶⁰。

52) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第七葉裏、第八葉表。

53) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第十一葉表。

54) 姜、すなわち姜詩、『日記故事』系「二十四孝」の孝子の一人である。

55) 崔、すなわち唐夫人、『日記故事』系「二十四孝」の孝子の一人である。

56) 原文の韻文には「母親」と記されているが、下段にある散文および中国の「女範」（『女四書』所収）には「姑」と記されているため、ここでは「姑」と訳した。

57) 中国の「女範」（『女四書』所収）には「啗姑之蛆」と記している。山崎純一氏は「病いで腐った姑の体に涌く蛆をわが歯で噛み殺して追いはらい」と解釈した。山崎純一、『女四書・新婦譜三部書全訳』（明治書院、2002年）、259頁を参照。

58) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第九葉表。

59) 原文の韻文には「母」、「子」と記しているが、下段にある散文には「内祖母（父方の親）」とあり、また、中国の「女範」（『女四書』所収）には「祖母」と記されているため、ここでは「祖母」、「孫」と訳した。

60) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第十五葉裏。

【日本語訳】

(王覧の妻は) 姉⁶¹⁾の代わりにつらい仕事をした。王家には王覧の妻ほどやさしい人はいない。

このように、「国朝女範演義詞」に記述されている孝悌の対象は、父母だけではなく祖父母、兄弟にも広がる。内容としては親の看病をすること、親のために殉死すること、親の面倒を見ることが、危険から親を守ること、兄弟に孝悌すること、場合によっては、自己の命や名誉、権利などを忘れることを強調している。ここには、「養親」、「奉親」、「愛親」、「礼孝」、「孝悌」、「苦孝」という「孝」の心情が窺える。すなわち、「国朝女範演義詞」で語られた孝女、孝婦の説話は、『礼記』祭統篇に「是故孝子之事親也、有三道焉。生則養、没則喪、喪畢則祭」といい、『中庸』第十九章に「踐其位、行其礼、奏其楽、敬其所尊、愛其所親、事死如事生、事亡如事存、孝之至也」といった語の示す思想を表現していることになる。また、本書に見られる孝女、孝婦の記述は、舅、姑（夫方の親）に対する孝行が圧倒的に多くを占めている。それは「父系親族集団」を重視するものだからであろう。

(5) 女子の学問、才徳、智恵を高唱する

婦徳、婦道に関する話の他にも、女子の才徳、智恵の模範を引用しつつ、この才知によって、夫の事業を扶助するだけでなく、後代に知識を伝えること、国の文芸などが盛んになるように貢献することなどの女子の学問を称賛する。

【原文】：

戸徐扶運文皇、ハ編内訓燦塘咄嘯⁶²⁾。……啞蘭悉蕙蕘萩、使君固媾羅敷固馱⁶³⁾。……智如陳母拯仍、別塘事理別澄盛衰。……嗜朱絡秀坤頑、蘭茄攝役客官艱悉⁶⁴⁾……韋家宋氏宣文、綏涓周禮翹樓臣儒。班昭⁶⁵⁾ 曹氏大姑、顔辭宝浩没鋪史茄。孝經固册彈娑、學隊曾子箕羅陳妻。余排論語閩蘭、尼娑宋女器皮女師。曹昭守義埃皮、貼篇女誠男兒拱讓。……余埃別德夫君、讀排諡惠械浪展妻。没名伏氏強稽、義傳經聖序題册希⁶⁶⁾。

61) 「姉」は王祥の妻を指す。王祥は王覧の兄であり、『日記故事』系「二十四孝」の孝子の一人である。

62) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB.140）第五葉表。

63) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB.140）第十葉裏。

64) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB.140）第十七葉表裏。

65) 「昭」は、成泰帝の名である「阮福昭」の「昭」を避けるため、欠筆となっている。(Ngô Đức Thọ、『ベトナム各王朝の避諱文字の研究』(Nghiên cứu chữ húy Việt Nam qua các triều đại)、Văn hóa 出版社、1997年)、166～167頁を参照。

66) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB.140）第二十葉裏、第二十一葉表裏。

【日本語訳】：

徐氏は文皇⁶⁷⁾であり、(婦女に)教訓するため「内訓」篇を作成した。……(羅敷氏は言い寄ってきた趙公に)蘭、百合の花のように美しい言葉、美しい心で「使君には妻がいて、羅敷には夫がいる」という詩で(趙公の要求を拒否した)。……才知は陳母のように模範的であり、物事を詳しく知って国の盛衰を予測できる。……賢い絡秀は褒めるに値する。家事もきちんと整え、(親の代わりにお客を接待して)お客を満足させた。……韋家の宋氏は帝により宣文(すなわち、宣文君)に封じられ、『周礼』を人に伝授したため儒学を盛んにすることに貢献した。曹氏大姑、すなわち班昭は国の史書(すなわち、『前漢書』)を作成し、千年のちまで伝わった。陳妻は曾子を見習って、女子に対する『孝経』を編著した。師である宋女は未婚の娘たちに対する『論語』を編著した。誰とも比較できないような義を順守した曹昭(すなわち、班昭)の「女誡」は男子も頭を下げた。……展妻のように夫君の徳を知っていたものはほとんどいない。彼女は(夫の弟子の代わりに)「諡恵」を著わして読み上げた。伏氏の芳名はなおさらである。聖賢の経書を書き写し、帝に奉った。

以上に見られるように、才知、才徳の女子は聖賢の経書に精通しつつ、詩文を著わす才能があること、女子のための教訓書を編著すること、家事を整えて客を礼にならって接待することが求められる。また、このような才知、才徳の婦女は女子に聖賢の思想、教えを伝えるかけ橋となり、学問分野において男女の不平等さを縮めることに貢献したといえよう。さらに、陳母が子に対して、自分や他人を害しないように、自らの実力を正確に認識して自分の能力に合う仕事をすべしと教えた話からは、陳母は子息に「八条目」(「格物」、「致知」、「誠意」、「正心」、「修身」、「齐家」、「治国」、「平天下」)のうちの二つの条目(「格物」、「致知」)を教えていたといえる。言い換えれば、「格物」、「致知」、「才徳」は女子にとって重要なことであり、婦徳の基準の一つと見なされていた。ただ、原文に記されている「才能媽易讓埃、朋齋空徳咄 粲拱慣」⁶⁸⁾(女子は誰にも負けないほど才能を持っていても、徳を持っていなければ、男はもちろんであるが女はなおさら卑劣な人に見られる)および「女子無才便是徳、此語殊非。……故女子之有徳者。固不必有才而有才者。必貴乎有徳」⁶⁹⁾(『女四書』卷四「女範」)のとおり、「徳」を「才」より強調する才徳観についても述べている。

また、「国朝女範演義詞」の「才徳」節を中国の「女範」と比較すると、緹縈の話が省かれて

67) 「文皇」、すなわち、仁孝文皇后であり、明の成祖帝の妻である。

68) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』(AB. 140)、第二十葉裏。

69) 『女四書』卷四女範、第二十七葉裏～第二十八葉表。

いる。これは緹縈の話が「孝行」節に記述されていたため、その重複を省いたのであろう。

(6) 「仁義」、「同胞の情義」、「信」、「忠」の思想を強調する

「忠君」の模範、主人および同胞に対する情義、仁義を行う話などを記述しつつ、「忠」、「信」、「仁」、「義」の思想を称賛する。原文を考察してみる。

① 「忠」の思想

【原文】：

馬妻拱選台羅、軼輶曉賊妾他妬証。……従容節義堆輪、別包義婦没羣趙妻。……尼朱家婦雄才、兵散秦寇城培夫人。梁夫人否能臣、嶽高破賊藏神欲兵。……謝妻甘貂牢囚、救民包院從夫拱停。垣恩之詫料驗、課亂齊國傷情晏娥⁷⁰。……戸朱返變隋家、決停捕甦免羅特証。魯公義保兼尼、料抗混稚底寢主茄。魏曙節乳箕羅、拯貪飢兩廡沙恥悉。娘孫包當榮封、恊功侶義羣泐碎証。尼娘毛妓拱能、他當竊賊拯排啗歌。戸劉別守道茄、混雖拱惜法陀坤干⁷¹。

【日本語訳】：

馬妻も不思議な人であり、夫が賊に降伏したため、彼女は（夫の不忠を恥じて）殉死した。多くの義婦のうちには、趙妻がいた。従容⁷²で彼女は節と義両方を全うした。……朱家の婦人は雄才であり、城を修築して、秦兵を破った。梁夫人はすぐれた臣下にとえられた。高い山で太鼓を打ち兵士の精神を高め、賊を破った。……謝妻は（民衆を救うために）自発的に獄中に入り、民衆を救うことも夫に従うことも全うした。恩に報いるため自らの身を顧みない。斉国に兵乱があったとき、（桓公のために殉死を遂げた宮女である）晏娥のことをかわいそうに思った。……隋国に変乱があったとき、朱氏は正義を実施するために生死を気にしなかった。このような魯公（すなわち、魯の孝公）の義母がいた。彼女は主人である孝公の命を守るため思い切って自分の子を犠牲した。魏の乳母が節義の人であることは褒めるに値する。彼女は千両の金を貪らず、主人に対する忠心を変えなかった。孫氏は高貴な爵号に封じられており、忠義の召使のおかげで後裔を残すことができた。妓女である毛氏もすごい人である。賊に歌を聞かせるより死んだほうがましであるとした。劉氏は家法を順守して、（軍令を犯した）子のことを惜しがったが、（将軍である夫が）子の罪の判決を下すことについて敢えて諫言しなかった。

70) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第十二葉裏、第十三葉表裏。

71) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第十四葉表裏。

72) 従容、すなわち従容堂。城が賊に囲まれた際、趙妻が夫とともに殉死した場所である。

② 「信」の理念

【原文】：

鄧妻撫難腐賊、捕毘救 招恩垺斲箕⁷³⁾。

【日本語訳】

鄧妻は災難に遭ったとき、子を捨てて甥を救ったため、この甥はその後、鄧夫妻に恩を報いた。

③ 「仁義の心」、「同胞に対する情義」

【原文】：

ハ馱章母穢頑、茄安拯補民安買停⁷⁴⁾。……鉢糶漂母羣傳、雖啜飢兩易垺斲恩。……娘清臺喚羣盼、抗朱蜀郡塔塹長城⁷⁵⁾。

【日本語訳】：

章母は賢い人である。一家族の安危より民を安らぐ方が満足する。……漂母の一杯のご飯の話は後代に伝わった。(韓信は漂母に)千両の金を褒賞したけど、この恩に報いることは容易ではない。……清臺氏は長城を建設する際、(故郷の民衆を長城建設の犠牲から救うために)郡に(金銭)を差し上げた。

このように、以上の話は「忠」、「仁義」、「信」の理念を賞賛する。「忠」は君や主人に対する忠誠および愛国心を持つこと、帝や主人の後裔を見守って面倒を見ること、賊の要求に応えないこと、家族の情けより国法を重視することなどを強調している。すなわち、「忠」の理念は君と臣、民と国、主と僕の関係など大きな範囲へと広がっている。この点は「忠君」に傾く儒教の思想体系と異なっているといえる。また、同胞に対する「仁義」、「忠」、「信」を実行するため、場合によっては、自分の命、子の命さえも犠牲にし、国家、民族の利益を家族の情義より優先していることがわかる。

(7) 「礼」を重んじる

頑なに「礼」を順守した衛姫、杞梁妻、共姫などの模範について記述しつつ、命を落としても「礼」を重視するべしと強調する。

73) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』(AB. 140) 第十五葉表。

74) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』(AB. 140) 第十四葉裏。

75) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』(AB. 140) 第十八葉裏、第十九葉表。

【原文】：

歳糝拏法吏強、貼娵歎母待扨季孫。衛姬車樹添愜、油翰讎拏禮羣拱輶。……杞梁妻包苦齊、咏塘失禮主扨拱蹠。……共姬待乳迳塘、炤爨炆壳焯蒼歪⁷⁶⁾。

【日本語訳】：

歳を取れば取るほど法礼をさらに固く順守する。歎母が（孫である）李氏を接待することをご覧なさい⁷⁷⁾。衛姬は（簾が破れた車を綺麗な簾のある）車に替えることを要求した⁷⁸⁾。礼を守るため、わが身のことはかまわずに死んでもよい。……杞梁の妻は非常に苦しかった。道上で主君（すなわち、斉侯）が（弔問しようと願ったが、杞梁の妻はこれが）非礼であるため（弔問を断った。そのため）主君は杞梁の家に行った⁷⁹⁾。（宮中で火事が起きたとき）共姬は乳母⁸⁰⁾が来るまで待ち、（礼を守るため焼死した）、火が永遠に燃え、香りのよい煙が天に届いた。

このように、「国朝女範演義詞」で論じられている「礼」は、『礼記』の「男女有別」の思想などが反映されているといえよう。ここで注意したいのは、「国朝女範演義詞」の「礼節」を中国の「女範」と比較すると、いくつかの話を省いているといえる。たとえば、女は「六礼」をまっとうしないまま、嫁を迎えに行った男に断った話や、妻と妾を持っている無能で非才の夫が嘘をよく言ったため、二人の妻妾は夫に対する信頼の心を失って、おのれの頼れるところがないかと気にした話⁸¹⁾が記述されていない。すなわち、ベトナムの「国朝女範演義詞」の筆者

76) 注9 前掲、『皇陳廟坤範嗣音歌章合稿』（AB. 140）第十六葉表裏。

77) 歎母が孫と話したとき、自分は部屋の中にいるまま孫が部屋の外に立って話す。

78) 衛姬が簾の破れた車に乗らないことについては、『礼記』内側篇に「女子出門、必擁蔽其面、夜行以燭、無燭則止」とある。すなわち、女子は外出する際、必ず顔を隠すのである。

79) 杞梁が弔問を屋外で受けなかったことについては、『礼記』檀弓下に「曾子曰、黃尚不如杞梁之妻之知禮也。齊莊公襲莒于奪、杞梁死焉。其妻迎其柩於路而哭之哀。莊公使人弔之。對曰、君之臣不免於罪、則將肆諸市朝、而妻妾執。君之臣免於罪、則有先人之敝廬在。君無所辱命」とある。すなわち、礼として婦人の場合、弔問を屋外で受けることは非礼であるとされている。

80) 乳母、すなわち姆である。共姬は火事があつたとき、姆が来るまで待たため焼死した。このことは『春秋穀梁伝』襄公三十年に「五月甲午、宋災。伯姬卒。取卒之日、加之災上者、見以災卒也。其見以災卒奈何？伯姬之捨失火、左右曰、「夫人少辟火乎？」伯姬曰、「婦人之義、傅母不在、宵不下堂。」左右又曰：「夫人少辟火乎？」伯姬曰、「婦人之義、保母不在、宵不下堂。」遂逐乎火而死。婦人以貞為行者也、伯姬之婦道盡矣。詳其事、賢伯姬也」とある。すなわち、女子は夜、一人で外出してはいけないということである。

81) 『孟子』離婁上に「齊人有一妻一妾而处室者、其良人出、則必饜酒肉而後反。其妻問所與飲食者、則尽富貴也。其妻告其妾曰、良人出、則必饜酒肉而後反、問其與飲食者、尽富貴也、而未嘗有顯者來、吾將矐良人之所之也。蚤起、施從良人之所之、遍國中無與立談者。卒之東郭・間、之祭者、乞其馀、不足、又顧而之他、此其為饜足之道也。其妻歸、告其妾曰、良人者、所仰望而終身也、今若此。與其妾訕其良人、而相

(綿實皇子)は「夫としての役割を果たさない無能な人であれば妻はそのような夫に従う必要はない」といった考え方を勧めないといえよう。このことは阮輝瑩の「訓女子歌」文献にも見られる⁸²⁾。これらの考え方は「夫なる者は天なり」といった『女孝経』の主張と一致し、夫に向き合う妻の姿勢は絶対的な服従であるべきことを強調している。そうであれば、ベトナムの「礼」の規定は中国のそれと比較してより厳しいものと指摘できる。

おわりに

「国朝女範演義詞」がベトナムの避諱、改字を行なうのは大きな特徴であり、ベトナムの特色を強く持っている文献であるということができよう。そうであれば、本書は中国の「女範」のベトナムにおける受容と変遷を物語る興味深い文献といえる。これらの受容、変遷を明らかにするためには中国の「女範」と本書を比較する必要があるが、その詳細な分析については次の機会に行うこととしたい。また、すでに述べた通り、本書の各葉は上段、下段の二つの部分に分けられる。上段には中国の「女範」の内容を「六八体」の形で字喃詩により演音しており、下段には注釈文としての散文を記しているが、中国の原本の「女範」を参考にしなければ、また、中国の『列女伝』、母儀、賢妻などの模範についての知識がなければ、内容が理解しにくいことも事実である。

さて、「国朝女範演義詞」に収録される女性譚の出典については、「女範」が「二十四孝」、『百孝図』、『列女伝』、『後漢書』、『世説新語』、『筆記小説』、『晋書』、『春秋穀梁伝』などの女性譚を引用しており、「国朝女範演義詞」はそれらの話にもとづき、字喃によって「六八体」の詩体で翻案した。また、これらの記述の時代も前漢、南朝、南北朝、唐、宋、元、明と多岐にわたっている。

次に、「国朝女範演義詞」の伝統女性観は中国と同様に「良妻賢母」、「三従四徳」を重視し、「忠」の理念、「貞」「節」「烈」を含む貞節観をもち、「孝行」「孝悌」「信」「才徳」「勤儉」、「勤勞」、「守礼」などを重視するとともに、国家や同胞に対する仁義や、父系親族集団の維持を重

泣於中庭。而良人未之知也。施施從外来，驕其妻妾。由君子觀之，則人之所以求富貴利達者，其妻妾不羞也，而不相泣者，幾希矣」とある。

82) 『訓女子歌』に「庄路歎固官高、庫賢共沛能切奉蜎。世蒂丑默歎些、双离卒業亦异歎馱、馬兮呵々嘔吱」(夫が高位官職者であっても、貧しい者であっても、一生懸命に仕えなければならない。賢くないものは自分の夫であり、賢いものは他人の夫である。自分の夫を非難してはいけない)とある。(佐藤トウイウエン、「フランスのBibliothèque Universitaire des Langues et Civilisations (BULAC、大学間共同利用言語・文化図書館)に所蔵されている「訓女子歌」文献について」、『関西大学東西学術研究所紀要』第50輯、(関西大学東西学術研究所、2017年4月)、302頁。

視するものであることが明らかになった。それは「八綱目」⁸³⁾、「修身」、「齐家」、「孝敬柔順」、「仁明慈和」、「勤勞」などという儒教の婦道、婦徳、婦礼に関する思想を反映していると指摘できる。伝統中国の女性の教育・修養について、山崎純一氏は「卑弱下人と勤勞の二徳を、女性の生き方の根本的態度として勧め、夫家に入り、そこにとどまり祖先の祭祀を助けつづけることを心がまえとして説き、教育の出発点を、この態度・心がまえを植えつづけることに置いている。……卑弱下人、貞静幽閑、孝敬柔順、仁明慈和等の諸徳目は、家庭内における女性地位から主として要求されてくるものであり、勤勞の徳目は女性の主要な日常の生活様式から要請されてくるものであった。」⁸⁴⁾と述べている。ただし、「国朝女範演義詞」に記されている「守礼」の理念については、「夫としての役割を果たさない無能な人でも妻はこの夫に従わなければならない」という考え方を勧めるが、一方、中国の「女範」は「妻は賢明ではない夫に従わなくてもよい」といった主張があるため、ベトナムの「礼」の規定の方が中国より厳しいといえる。

さらに、ベトナムにおける他の「家訓」文献には、女子が機織り、家畜養育をはじめとする女功を身につけることを強調する一方、学問、聖賢の経書を学習するのは男性の特権であるとしているため、学問分野における性不平等があることを反映している。ただし、「国朝女範演義詞」では学問のある女性を称揚している。すなわち、本書には女権の奨励が見えるわけである。また、他のベトナムの「家訓」文献は女子教育の倫理を奨励する教訓型が数多くを占めているが、「国朝女範演義詞」は女子の行状、女性の生き方を記述する伝記型でもある。

「国朝女範演義詞」に収録される話では、孝女、貞女の話よりも烈婦、孝婦、節婦、母儀、賢妻が多く登場する。すなわち、ここでは娘よりも妻、嫁、母の役割を重視するものといえよう。

貞節観について付言すれば、現代ベトナムでは結婚前に女性が貞節を守らなければならないという考えを支持する人が60%に達している⁸⁵⁾。こうした貞節観のほか、父系親族集団（嗣子を生むこと）、親孝行や孝悌を重視するといった観念は現代のベトナム社会に色濃く見られる。このように「国朝女範演義詞」はある意味で現代ベトナム社会の価値観と共通するものを持っているかもしれない。

83) 八綱目、すなわち「正静」、「卑弱」、「孝愛」、「和睦」、「勤謹」、「儉質」、「寛恵」、「講学」である。「与劉子澄書」、「晦庵先生朱文公文集」巻35（朱傑人ほか主編『朱子全書』、上海古籍出版社、2002年）、1553頁。引用は任夢溪、「中村惕斎の女子教育観——朱子学の影響と『比賣鑑』」（『東アジア文化交渉研究』第10号、関西大学大学院東アジア文化研究科、2017年）、436頁による。

84) 山崎純一、『女四書・新婦譜三部書全釈』、明治書院、2002年、47～48頁。

85) グエン・テイ・ホアイ・チヤウ「現代ベトナム都市部の父系親族集団における女性役割の変容——儒教規範との関係から——」（『岡山大学大学院社会文化学研究所紀要』第36号、岡山大学大学院社会文化学研究科、2013年、159頁）。

【付記】本稿は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）「基盤研究（C）」（課題番号15K02092、平成27年度～30年度、佐藤ツイウエン研究代表）「ベトナムの「家訓」文献と伝統倫理の研究」における成果の一部である。